

令和4年度鳥取県パートナー県政推進会議の開催結果について

令和4年11月21日
新時代・SDGs推進課

「県政は県民のパートナー・地域のパートナー」であることを原点として平成25年に制定した鳥取県民参画基本条例の基本理念に基づき、県政への県民意見の反映や県民と県政との協働のあり方について議論を深め、施策の改善を検討するため、令和4年度鳥取県パートナー県政推進会議を開催しました。

- 1 開催日 令和4年11月5日（土）午後1時から2時45分まで
- 2 場所 災害対策本部室、西部総合事務所災害対策室、その他オンライン参加
- 3 出席者 委員10名（名簿のとおり）、知事、令和新時代創造本部長
- 4 テーマ ポストコロナ時代の新しい鳥取県の創造

5 主な意見等

- ・鳥取県の良さは自分で体験した上で振り返りを行うことで実感になる。県外から進学を機に鳥取へ来た学生に鳥取での就職を繰り返し強調するよりは、定期的にアンケート調査を行うなどすることで学生自身が鳥取の良さに気づくことが大事ではないか。（高井委員）
- ・県内の特に学生世代の鳥取への愛が希薄な感じがする。鳥取愛を増やす取り組みをした方がよい。10代から20代の転出の割合が増えている一方で30代以降は転入が増えているのに着目するほか、高齢者も支えられるのではなく支える側に回るといった考え方でアプローチも必要ではないか。（奥内委員）
- ・子ども食堂、フードバンクとも収入を得るところがないため運営資金が毎年綱渡りであり、民間の力だけでは持続可能な運営はできないと感じているので、安定した行政支援が必要。（辻委員）
- ・原料の高騰、円安で県内の事業者、経営者は先行きが見えない状況ではあるが、円安をいい機運ととらえてコストの見直しを図るなどの取組を促すような施策・補助金を検討してほしい。また、インバウンドの早期再開をしていただきたい。（川上委員）
- ・鳥取県に旅行に来てもらうための県独自のキャンペーンをしてはどうか。また、現在行われている全国割が終了した後も継続実施してほしい。（水沢委員）
- ・高校の課題研究で鳥取県の観光地のPRについて研究しているが、初めて知るところも多い。学校の配布物で観光地について紹介すれば興味を持つ人が増えるのではないか。（伊吹委員）
- ・観光とワーケーションは全く別物と考えている。人を呼ぶ資源になるものが鳥取にはたくさんあり、観光では行かないような場所にもたくさん人が呼べる。来てくれた人とさらに繋がりを深めていくことができるような場所が県内各地にできると交流が深まり移住定住につながっていく。（貝本委員）
- ・省エネルギーの取組は、大企業だけではなく中小企業やもっと下の裾野まで広げていかなければいけない。また、再生エネルギーを高めることも重要だが、自分たちが使っている電気の賢い省エネ、スマート省エネを特に若い人たちには自分で考えて進めてほしい。（西村委員）
- ・もっと鳥取の暮らし方、鳥取で暮らすとこんな生活になるというのを発信してほしい。空き家や耕作放棄地の利活用の面でも農業は相性がいいと思うので、農村ならではのことができるのではないか。（前田委員）

6 今後の予定

会議でいただいた意見や提案について、県施策への反映を検討する。

